

## Topics

# 鳥取・こうほうえんの研究発表会に540人参加で盛り上がる

「質の高いケアを求めて」ずっと頑張り続けてきた社会福祉法人こうほうえん（廣江研理事長、本部：鳥取県境港市）の第15回こうほうえん研究発表大会が3月26日、米子コンベンションホールに540人が参集して開かれた。発表された演題数は152。今回は15年目の節目とあって参加者も演題も、また他法人から15



廣江研理事長

法人が参加し盛り上がった。5会場に分かれ「QOLの向上」「排泄介助」「看取りケア」「在宅支援」「保育所」「リハビリテーション」などの分野で、サービスの質の向上を目指した、こうほうえんグループの現場力の強さをアピールした。1987年創業して今年で25年。事業所は鳥取からさらに東京にまで広がって計133になり、職員数は1800人の大所帯になった。事業分野は介護のみならず医療、保育、障害者など複合化した。「組織が大きくなるとどうしても法人の理念や方針にそぐわないことが起きたり、サービスの質にもばらつきが出たりする。これを是正し、時代の流れよりも一歩先んじて新たな取り組みに挑戦してきたのがこうほうえん。その原点は職員一丸となってやってきた教育・研修体制であり、その集大成が年1回のこの研究大会」（廣江理事長）。特筆すべきは毎回力を入れて編集される「研究発表抄録集」（A4判361ページ）。厚さ約1cmのボリュー

ムで、他の類似研修会のそれを圧倒する。細部にわたって工夫が行き届き、全演題に要約が一覧表となっており、全職員に読んでもらいたいという願いが伝



第15回研究発表会会場

わってくる。今年は「優秀賞」も設けられ、個人的な励みとした。またランチョンセミナーでは認知症予防寸劇（なんぶ幸朋苑認知症推進グループ）なども演じられ、地域への情報発信に工夫がこらされた。グループ全体の取り組み課題は「地域包括ケア体制の確立に向けての組織改革の推進」。「これからは高齢者だけの問題ではなく、中学校区に住む児童、障害者、虐待、家庭内暴力までを含めた地域ぐるみの生活の再構築であり、かつての向こう三軒両隣の再生だと思っている」（廣江理事長）。

東京地区での事業は、ヘルスケアタウンうきま（北区）、ヘルスケアタウンにしおおい（品川区）が定着しつつあり、4月1日にはJ R東日本と提携した認可保育園キッズタウン東十条（北区）がオープンして、首都圏でのこうほうえんの存在感は鳥取での蓄積により一層増している。